

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2690900432		
法人名	社会福祉法人京都眞生福祉会		
事業所名	グループホーム 京都指月の郷 East館(望月)		
所在地	京都府京都市伏見区秦長老176番地5		
自己評価作成日	平成30年11月29日	評価結果市町村受理日	平成31年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区木屋町通上ノ口上ル梅湊町38番地1「ひと・まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年12月26日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

地域住民も参加可能な行事の企画等を通じて地域との繋がりに力を入れている。グループに病院があり医療面でも家族や本人が安心して過ごせるように支援している。日中、看護師が常駐しており夜間のオンコール体制をとっており利用者、職員共に安心して過ごせている。職場環境においても、研修の充実、面談の実施、労働時間等、働き甲斐のある職場作りに努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

京都指月の郷は、御香宮に近い国道24号線沿いの東側、団地に囲まれた静かな環境にあります。平成30年3月に開設され、West館(地域密着型特別養護老人ホーム、ショートステイ、グループホーム2ユニット)East館(グループホーム3ユニット、小規模多機能型居宅介護)が協働して運営されています。医務課に看護師が常勤し緊急時の迅速な対応は入居者の大きい安心となっています。直営厨房の管理栄養士による栄養管理や入居者の体調に合わせた食事形態への迅速な対応をされています。1階に広いおしゃべりな半円形の地域交流スペースを整備し、認知症カフェや団地の自治会の集会などに開放し、初めての秋祭りは入居者や家族、地域住民など総勢200人程の参加者で賑わっています。地域が事業所を受け入れ、事業所が地域とのつながりを大切にされている証であると思います。運営推進会議には、多くの家族が参加し意見交換して、事業所に対し協力と信頼を高めています。開設後10ヶ月に満たない早期の評価受診は入居者へのサービスの質の向上に対する職員の強い思いであると評価します。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に法人理念を掲示している。ユニット毎に目標を立て評価している。その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。	望月ユニットは「0温かい雰囲気の中で一人ひとりの希望の実現を目指します 0チーム連携を大切にコミュニケーションを密にし、信頼ある関係を築いていきます 0明るく楽しい笑顔溢れる毎日を共に過ごします」とユニット理念を掲げている。さらに、達成目標を3項目掲げてミーティングや研修の場で話し合い理念の振り返りや達成目標の評価を行い実践につなげている。	法人の理念に沿って、地域密着型サービスの意義をふまえてグループホーム「京都指月の郷」の思いを込めた理念を職員と話し合っ作られるよう期待する。理念はホームページ、パンフレットや広報誌などに明記し、家族や地域に向けて発信されたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの受け入れや地域に開けた秋祭りを行っている。近隣のイマジンの夏祭りにも参加している。	団地の自治会に加入していないが、自治会長との連携を持っている。近隣のイマジン(障害者地域共生拠点事業所)の夏祭りに入居者が参加したり古紙回収に協力している。ボランティアのともネットのバザーや行事などに参加している。指月の郷開設をして初の秋祭りは、家族や地域住民、イマジンからなど200人ほどの参加者で盛り上がった。地域交流スペースは自治会の集会などに開放し、月1回の認知症カフェには(小規模含め参加者5~6人)住民参加もあり連携を構築中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェの実施を始め、地域住民も参加出来る行事や事業所に対する理解が深められるよう努めていく予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、グループホーム内の取り組み、行事や研修報告、ヒヤリハットや事故事例などの報告、地域との繋がりがもてる意見交換を行っている。	会議は、団地の自治会長や民生児童委員、地域包括支援センター、イマジン、家族(子どもや孫同伴で14~15人)などが参加して開催され、入居者及び運営状況や事故、職員研修などを報告し、行事の取り組みはスライド写真で入居者の表情が見えるよう報告している。ヒヤリハットキャンペーン中の分析では、事故前の気付きにより事故の減少を立証し報告している。地震の時の入居者の様子を案じて家族から質問があり、状況説明をして安心を伝えている。	会議記録は、様子が手に取るように理解できる良い記録を残している。孫同伴など多くの家族の参加は事業所に対する信頼と協力の証である。質問などその場での対応が難しい場合は「検討します」とし、この事案は次回の会議の議題に挙げて確実な回答をされるよう望みたい。このように連続性を持たせた会議運営に配慮されるよう期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録を市の窓口へ届けている。相談事やわからないことは直接聞いたり電話で確認している。市からの研修案内を受け参加している。	事業所開設時は、市の担当者から多くの指導やアドバイスを頂き、相談にも再三伺っている。現在は運営推進会議の議事録を持参し、現状を報告して疑問を尋ねてアドバイスをもらっている。行政主導の地域密着型事業所連絡会(2ヶ月毎)に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体研修時に研修を開催し周知している。身体拘束の事例はない。	事業所は、「身体拘束ゼロ宣言」を表明し「身体拘束ゼロへの取り組み指針」を作成している。入居時には、これを家族などに説明の後で同意を得て書面に捺印をもらっている。身体拘束・高齢者虐待に関する研修を実施し、毎月の全体会議においてもポイント研修をして職員の意識を高めている。玄関は日中施錠しない。言葉の拘束にもその場で注意している。	

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館 (望月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修時に研修を開催し防止に努めている。事例を出し全職員に何故虐待が起こるかを考える時間を作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設時に権利擁護の研修を開催している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。項目ごとに噛み砕いて説明し、不安が残らないように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や運営推進会議、介護計画の見直し時、面会時等にも意見や要望を聞くようにしている。	職員は、家族の面会時に意見を聞き取る姿勢で話している。運営推進会議では、家族から「クレームの用紙はあるが、有難かったことを書くメモが欲しい」との意見があり検討している。「面会簿は個人情報が見える」と言われ、小さ目の一枚用紙に変更してボックスに入れ、個人情報の漏洩を防ぐ工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やサービス会議の場で提案できる機会を設けている。年2回の人事考課やOJTシートの振り返り時期等面談の機会を設け意見を聞いている。	全職員が集まる全体会議は、職員の意見を聞き取る機会としている。全職員が事故対策委員など8部門の委員を分担し、サービスの向上に向けて計画や現状を話し合い活発な意見を交し運営に反映させている。年2回の人事考課やOJTシートでの振り返りにおいても意見を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き甲斐のある職場づくりとして人事考課制度を導入している。向上心を持って働けるように外部研修でも自分の興味のある研修に参加出来るように情報提供し参加を促している。また交流会を設け職員が交流出来る場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTシートを作成し一人ひとりの職員の目標を立て定期的に評価、面談を行っている。また内部研修を毎月開催しており、外部研修の情報も発信し多くの研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イマジンさんの夏祭りに参加させて頂いたり、秋祭りの際にはお手伝いに来て頂いている。特別養護老人ホームや小規模多機能と合同でイベントを開催している。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言葉をそのまま記録に残し思いを知り、要望を職員間で共有している。本人の意向や家族の意向をできる限り実現しているよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあったときだけでなく、普段の面会時に声をかけ近況等を伝えるようにしている。その都度細かなことでも家族に連絡し話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3か月に1回ご本人、家族、職員の意向や希望を話し合う機会を設けている。訪問診療や訪問歯科、訪問理美容のサービスを取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に掃除や食事の盛り付け洗濯を行ったり、貼り絵等の作業を一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1回ご本人、家族、職員の意向や希望を話し合う機会を設けている。入居者の思いや希望を一緒に考え、家族にも本人の気持ちを伝え、出来る限り偏りのない支援に繋げる努力を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚の方が顔を見に面会に来られたり、昔から買い物に行かれていた場所に一緒に買い物に行ったり、なじみの場所へドライブに行ったりと支援している。	入居者の親戚の方が面会に来られている。以前行っていた買い物の場所(ショッピングモール)や馴染みの稲荷大社とその周辺の街並みをドライブすると懐かしそうに想い起されている。小規模多機能型居宅介護事業所の利用者との交流「女子会」や、ももネットのイベントへの参加支援をしている。新たな馴染みの友だちを作り楽しそうに会話されている。	

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館（望月）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	食事の盛り付けや洗濯たたみを一緒にして いただいたり、貼り絵や体操、おやつ作り等 を共に行って頂き関わり合いの場を作っ ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	夫婦で入居されていた一方の方が入院退 所となったが契約が終了した後も家族や病 院より情報収集行い様子を見に行ってい る。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の会話の中で得た情報を記録に残し、 情報の共有をしている。モニタリングやアセ スメントの中でご本人・ご家族の意向や思い を聞きケアプランに取り入れている。	入居前に訪問し本人や家族から、その人の生活 歴や心身の状況、今後の生活への意向などを聞 き取り、居宅介護支援専門員からの情報も踏ま えてアセスメントしている。その後は日々の会話から 聞き取ったり、行動や表情、仕草などを注意して見 守り追加アセスメントし、これらの情報も共有して その人の思いを汲み取り支援につなげるよう努め ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	ご本人の話やご家族の面会時に聞き取りを 行うなどこれまでの生活の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し必要 時カンファレンスを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状 に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望を取り入れ 介護計画を作成している。担当者会議には 看護師にも参加してもらい意見をもらってい る。	ワイズマンの記録用紙を用いて入居者の状況や 意向をアセスメントしている。アセスメントから担当 介護士が作成したケアチェック表に全員が様子を 観察し記録している。この記録からモニタリングし て介護支援専門員が介護計画を作成している。 サービス担当者会議には、入居者や家族が参加 し意向に添った計画になっているかの確認をして いる。看護師も参加し意見を述べている。介護計 画は解り易く「ケアプラン一覧」を作り、ケース記録 に挟んで介護計画に沿った日々の記録を残してい る。モニタリングは毎月行い3ヶ月毎の介護計画の 見直しに反映させている。入居者の状況変化に応 じては随時モニタリングして計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は日常の様子に関すること、ケアプラン にかんすることで分けて記録し、日々の 記録から問題点や様子を共有でき、かつプ ランの見直ししがしやすい記録を残すようにし ている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館（望月）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出時に高齢のため付き添いが難しい家族に対して車での送迎、付き添いを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者と職員で作成した貼り絵や紙粘土で作ったウサギをSKYフェスタに出展したり、地域のイマジンへの夏祭りの参加を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療を行っている。他科受診の希望があれば受診を行い、ご家族の希望で訪問歯科にも往診に来てもらっている。	入居者は、協力医療機関（京都武田病院）の認知症研修医による月2回の訪問診療を受けている。現在かかりつけ医を受診している入居者はない。介護部医務課を設置し看護師を配置している。医療機関とは電子カルテで連携し迅速な伝達と情報の共有を行っている。必要に応じて協力歯科クリニックによる訪問診療や歯科衛生士の定期的な口腔ケア指導を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制を整えている。また訪問診療の際は看護職員も立ち合い実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係	協力医療機関である恵心会京都武田病院と医仁会武田病院と協定書を締結している。入退院時には地域連携の担当者と密に連絡を取っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書に記載し同意を得ている。	「看取り介護・重度化した場合の対応に係る指針」「看取り介護についての同意書」、希望する救命救急や看取り医療機関、医療行為に関わる「事前意向確認書」を作成し、入居時に本人や家族に対し説明して同意を得て署名、捺印を貰っている。入居者の状況の変化に応じて随時家族と話し合っている。看取りケアについては、看取り専門研修や看取り公開講座などの外部研修に参加し、内部で伝達講習して共に学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をし普通救命講習を受けている。緊急時の対応についても手順書を定めフローチャートの活用、研修も行い冷静に行動できるように努めている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館 (望月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を実施し運営推進会議でも防災について協議している。	消防署指導のもと、火災時の避難と消火訓練を年2回(昼間)実施している。夜間は自主訓練を行っている。入居者の一時避難所は2階のテラスに定めている。団地の自主防災会と連携している。AEDを設置し救命講習を受けている。運営推進会議で昨年の台風時の様子を話し合っている。耐震建築であり非常時は、福祉避難所としての役割が果たせるよう備蓄を増やす考えである。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	開設時研修で権利擁護の研修を実施している。それぞれの人格や性格、認知症の違いを理解し、認知症があってもその人らしくを尊重し、今できることを見つけていけるように努めている。	開設時には、全職員に対して「権利擁護について」研修を実施し、入居者の権利、尊厳について意識を高めて支援している。入居者は名前呼び、自尊心やプライバシーを傷つけないよう配慮して支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなくご本人に意思確認をし判断してもらっている。買い物希望時は時間を調整し外出できる機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにあわせた起床臥床時間や食事の好みをできる限り対応している。また散歩に行きたいや入浴をしたいなどの希望にも臨機応変に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択や散髪時の好みの髪型への聞き取りを行うなど支援している。季節の変わり目には家族にも協力してもらい衣替えを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食入居者と共に食事準備や盛り付けを行っている。また、食べたいものを聞き、食事行事やおやつレクを行っている。	食事は、管理栄養士が常駐する直営の厨房で調理して提供している。入居者は、職員と一緒に食事の準備や盛り付け、食後の食器洗いなどをして一人ひとりの能力や役割を活かしている。入居者に食べたい物を聞き、おやつレクでは一緒にフルーツパフェを作ったり、誕生会はケーキを作って祝っている。入居者の咀嚼や嚥下機能に応じた食事形態にも配慮して提供している。入所間もなく帰宅願望がある方は毎回食器洗いをされることで自分の役割、居場所を見つけ今は楽しみながらされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を毎食記録し残している。食事量や水分量が足りない時は補食を用意したり好みの飲み物で水分が摂れるように促している。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館 (望月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛け口腔ケアを行って頂けている。自力でのケアが難しい方には介助で行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを知り、その方にあった時間に声掛けトイレ誘導している。	入居者一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、トイレへの排泄誘導や声掛けをして支援している。夜間のみポータブルトイレや紙おむつの方も。退院後の入居時は、寝たきり状態で紙おむつを用いていたが、リハビリパンツとパットに改善し車椅子で自立移動されている。現在トイレ誘導を拒む方はない。トイレのドアのガラスの一部にプライバシーに配慮した目隠しを工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂取できるように、好みの飲み物を用意したり、毎日の体操に参加して頂いたりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴日は決まっているが、ご本人の希望に合わせて変更し入って頂いている。	入居者一人ひとりの入浴日は大まかに決めていますが、本人の希望があれば変更して支援している。昼間入浴を勧めているが、本人が時間指定されて夜間に入浴支援する場合もある。ゆず湯などの季節湯や入浴剤を使用するなどゆっくりと楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	様子をみながら離臥床を行って頂いている。夜間は各々のペースで居室に戻られ休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が変われば薬剤情報から把握し、副作用がでていないかを記録し様子を見ている。連絡ノートを使用し情報共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好きだったこと、趣味が継続できるように聞き取りを行い編み物や折り紙等実施して頂いている。新聞購読も行い、新聞を読む日課の方の継続もできている。		

京都府 グループホーム 京都指月の郷 East館 (望月)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行きたいと言われた場所への外出や買い物、地域の情報を収集し参加できそうな行事に参加している。また、季節を感じてもらえるような外出計画を企画し実施している。	天気の良い日は、West館につながる散歩コースを利用し、フリーパスでその屋上庭園で日光浴をされている。周辺の団地のつつじや金木犀を見に行ったり、春の花見や紅葉ドライブなどで季節を感じてもらっている。楽しい買い物や喫茶店なども喜ばれている。入居者の希望で自宅周辺などをドライブして支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の支払いはご本人に行ってもらえるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	体調不良の家族への手紙のやり取りができるように切手の手配やポストへの投函を支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる装飾を共に作成し飾っている。また、湿度・温度を測定し過ごしやすい空間づくりに努めている。	ユニット全体が優しい木目調で統一され、落ち着いた雰囲気である。リビングには、大・小の組み合わせ可能な形のテーブルを設置し、その側面が円形で入居者の体の前面がフィットするよう工夫されている。照明はほど良い明るさで、壁面には埋め込みの大型テレビを設置し、ソファを置いて入居者はニコニコしてゆったりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なじみの席でゆっくりと過ごされたり皆で集まりゲームをしたり行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅で使用されていたなじみの家具やテレビ、コップなど持ってきて頂き、自宅に近い居室づくりに努めている。	居室のネーム板には名前ではなく、入居者それぞれが好きな手作りの花輪などを飾り、個人情報保護している。ベッドからの転落防止のため低床ベットを確保し必要に応じて使用している。居室には、小型の整理タンスやハンガーラックなどを持ち込み、タンスの上には手作りした好みの小物を飾り気もち良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	机やいすによる動線の確認、行事のお知らせやカレンダーを活用し自立した生活が送れるようにしている。		